

海外留学報告書

【参加者A】

所属	リハビリテーション	学部	理学療法	学科	3	年
プログラム名	海外施設研修					
留学期間	西暦 2024 年 9 月 8 日 ~ 2024 年 9 月 14 日 (約1週間)					
留学先 (国・地域)	台湾	留学先大学名	中山医学大学			

1. 留学した理由、目的・目標	昨年この研修があることを知り、参加しようと思っていたが諸事情がありできなかった。しかし、今年こそ参加したいという気持ちがあり、前回参加した同級生から楽しかった、また行きたいという話を聞いて決断した。参加した目的として異文化に触れること、日本と台湾の理学療法を比べることの二つを挙げた。そして、目的の二つに加え、現地の先生や学生と日本語以外で翻訳を使ってでも話すということを現地での目標としていた。
2. 現地での活動内容 (授業や生活面など)	月曜日から木曜日までの四日間午前中は実技体験を交えて小児、神経、スポーツ、物理療法について英語での講義、午後からは大学の附属病院で整形、小児、義肢装具、補助具の施設見学をした。金曜日は遊園地に行き一日過ごした。生活面では一週間ホテルに滞在し、火曜日から木曜日の朝学校に行くとき以外は中山医学大学の学生の案内で一緒に行動をした。その際、中山医学大学の学生のおすすめの場所に行き夕食を食べたりして過ごした。
3. 留学の成果 (<ul style="list-style-type: none">・目標の達成度・新しく発見したこと・新しく感じたこと など)	今回の海外研修を振り返ってみて、楽しかったが言語の壁はとて高いと感じた。まず、目標に関して、異文化に触れること、日本と台湾の理学療法を比べること、現地の先生や学生と日本語以外で翻訳を使ってでも話すということを挙げたがすべて達成できたと思う。しかし、各授業で先生から「何か質問などあるか」と聞かれたことに対し消極的になってしまったり、現地の学生に気を使わせて話しかけてもらったりと自分自身に対する課題も見つかった。今後の自身の成長のために、課題を意識して生活していきたいと思う。1週間の間、台湾で生活してみても、日本では当たり前なことが台湾では当たり前ではなかったりと、様々な場面で異文化ならではの発見があり充実した日々が過ぎてとてもよかった。
4. 留学経験を今後、どのように活かしますか	中山医学大学の先生方が流ちょうに中国語と英語を話していたり、現地の学生も日本語を話せる学生がいたり刺激を受け、多言語が話せることの必要性を感じた。日本語以外に他の言語についても勉強をし、日常会話はある程度できるようにしたい。また、今後の進路を考えていく中で、日本だけではなく日本国外にも目を向けたいと思った。日本にも様々な国籍や文化の方が来ているがそのような方たちのことを理解し、外国人を含め、もし生活をしていて目の前に困っている方がいれば積極的に手助けしたいと思っている。
5. 自由記述	自分が少しでも興味を持ったことは試してみることが大切だということが分かった。

※学生から承諾を得たうえで、当報告書の記入内容を掲載しています。

提出日 2024 年 10 月 5 日

海外留学報告書

【参加者B】

所属	リハビリテーション	学部	理学療法	学科	2	年
プログラム名	海外施設研修					
留学期間	西暦 2024 年 9 月 8 日 ~ 2024 年 9 月 14 日 (約1週間)					
留学先 (国・地域)	台湾	留学先大学名	中山医学大学			

1. 留学した理由、目的・目標	私は昨年イギリスに留学しており、先生方から今回も行ってみないかと声をかけて頂いたことがきっかけで台湾への留学を決めました。私自身も、この留学は将来理学療法士になるために勉強していく中で必ず良い経験になると考えたからです。この時に設定した目標は、まずは元気に帰ってくること、英語を少しでも上達させること、そして台湾での理学療法を少しでも学び、吸収することです。実際に、行ったことはとても良い経験になりました。
2. 現地での活動内容 (授業や生活面など)	現地では、午前中に中山医学大学の先生の授業があり、午後からは附属病院で見学、放課後は現地の学生にオススメのスポットに連れて行ってもらうという1週間でした。授業では小児、神経、スポーツリハを学びました。附属病院では、リハビリ部をはじめ、義肢センターや心臓呼吸、装具センターを見学しました。1番心に残っているのは最終日の装具センターで、数々の車椅子があり、すべての車椅子に違う意味や役割があることを知りとても勉強になりました。
3. 留学の成果 (<ul style="list-style-type: none">・目標の達成度・新しく発見したこと・新しく感じたこと など)	人との交流などを含め多くを学ぶことが出来ました。現地の学生だけでなく、たくさんの台湾の方に本当にお世話になりました。台湾で気づいたのは、皆さん本当に親切だということです。例えば、放課後台中市を観光した後、必ず毎日ホテルに送ってくれたり、ごちそうしてくれたりもしました。台湾にはかなり日本の文化も入っていました。現地ではクレヨンしんちゃんや鬼滅の刃などが流行っており、とても親近感が湧きました。日本との文化の違いは人にあると思います。やはり人の良さなどが素晴らしいと感じました。
4. 留学経験を今後、どのように活かしますか	イギリス留学に加え、今回も言語の能力向上だけでなく、たくさんの良い経験を積むことができました。今後は理学療法士となるための勉強に活かして頑張っていきたいと思っています。
5. 自由記述	

※学生から承諾を得たうえで、当報告書の記入内容を掲載しています。

海外留学報告書

【参加者C】

所属	リハビリテーション	学部	理学療法	学科	2	年
プログラム名	海外施設研修					
留学期間	西暦 2024 年 9 月 8 日 ~ 2024 年 9 月 14 日 (約1週間)					
留学先 (国・地域)	台湾	留学先大学名	中山医学大学			

1. 留学した理由、目的・目標	私は、昔から海外に興味がありました。兄たちが高校の時に交換留学でオーストラリアなどに行き、とても楽しそうな写真を見たり、お土産話をたくさん聞いたりしていたからです。祖母や祖父もまた海外旅行が好きでたくさん時間を外国で過ごしていたので、その影響も受けました。高校生の時、兄と同じようにオーストラリアに留学しようとしたのですが、当時はコロナ渦ということもあり、留学自体が中止となりそのまま高校生活が終わってしまいました。そのようないきさつがあり、今回は親にも勧められてこのプログラムに参加しました。
2. 現地での活動内容 (授業や生活面など)	現地の授業では、先生は英語で話していたので座学を理解するのはなかなか難しかったです。しかし、実際に患者さんに使用している療法を行ってもらったり、機材を使わせていただいたり、自分自身で測定を行ったりなどとても楽しめました。病院内では、日本語を話すことができる理学療法士さんや患者さんがおりとてもわかりやすく学べました。また、こちらが積極的に楽しめるようなプログラムや観光などを事前に準備してくださいました。
3. 留学の成果 (<ul style="list-style-type: none">・目標の達成度・新しく発見したこと・新しく感じたこと など)	今回、初めて研修に行き、最初は留学先の学生や先生方と話すことができませんでした。しかし後半は、少しだけでも自分から進んで話しかけることが出来るようになりました。留学先の学生と話してみると、趣味や思考が似ていることがわかりました。また町並みなど、いたるところで日本と似ている点が多く見られました。このように共通点などを探していくことが多かったからだと思います。留学全体を通して考えると、今回の台湾研修はもっと最初から積極的に話しかけていればよかったなどの後悔が残りました。もし次に海外に留学する時や旅行に行く機会があれば、この反省を活かしもっと交流を深めたいと思っています。
4. 留学経験を今後、どのように活かしますか	今回の留学は、台湾研修で学んだことと日本の実習のやり方にどのような違いがあるのかを調べ、もっと深く学べるきっかけとなりました。また日本は日本国内で完結することが多いですが、台湾ではグローバルを意識しており大きな違いがあることを学びました。今後は少しでも海外に目を向けよう考えるようになりました。またコミュニケーションをとるためにはもっとその国のことをよく調べ準備をしっかりとすることが大切だと気づいたので、次に海外に行く機会があれば活かしたいです。
5. 自由記述	台湾では、多くのものが日本と似ていて話すきっかけがたくさんありました。ショッピングモールも日本ならではの寿司や服などがあり、台湾でもこのような物が人気なのだと分かりました。また、本場の食べ物の味は濃いものが多く、日本で食べたものと味が違って、なかなか味わえないものばかりで美味しかったです。これも海外の文化ならではの経験だと思います。最後になりましたが、同級生や先生とこのような貴重な時間を過ごせてよかったです。

提出日 2024 年 10 月 4 日

海外留学報告書

【参加者D】

所属	リハビリテーション	学部	理学療法	学科	2	年
プログラム名	海外施設研修					
留学期間	西暦 2024 年 9 月 8 日 ~ 2024 年 9 月 14 日 (約1週間)					
留学先 (国・地域)	台湾	留学先大学名	中山医学大学			

1. 留学した理由、目的・目標	元々海外研修には興味があったものの、金銭面の事情により見送っていました。さらに、海外に一度も行ったことがなかったので、研修と言えども海外に行くことは正直僕にとってはすごくハードルの高いことでした。けれど、友だちに誘われたのをきっかけに、「今行かなければ海外に行くことなんてないだろう」と考え、自分を成長させ、自分の理想とする理学療法士になるために海外の理学療法士の在り方を学ぼうと、参加することを決意しました。
2. 現地での活動内容 (授業や生活面など)	現地での授業は、英語と中国語の二か国語で話しており、理解するのはとても大変でしたが、日本とは違うゲーム形式でのリハビリを授業に取り入れていたり、多様なリハビリのやり方を沢山教えてもらえました。実技は見学が主ではありましたが、義足の構造やどんな人にどんな義足が合うのか、などを分かりやすく教えていただきました。また、現地の学生たちも色々な場所に連れて行ったりしてくれて、授業以外でもすごく楽しめました。
3. 留学の成果 (<ul style="list-style-type: none">・目標の達成度・新しく発見したこと・新しく感じたこと など)	海外研修に参加した成果は、自分では考えもつかなかったような方法で、子供もお年寄りも楽しめるようなリハビリを取り入れていることを知ったことによる視野の広がりと考えています。海外の理学療法士の方々はすごくフレンドリーで細やかに気遣ってくれます。そのようなフレンドリーな態度こそ、患者の方と触れ合う上で大切なものなのだという気付きも与えられ、目標に設定した海外の理学療法士の在り方を学ぶことが出来たと思います。また、授業で教えてもらったリハビリの方法は、主に学生が考えたものであるということを知り、学生のレベルの高さにも驚かされました。留学先の学生の理学療法に対する姿勢を見習い、僕自身も技術の習得に励みたいと感じました。
4. 留学経験を今後、どのように活かしますか	今回の研修では、義足について学ぶことがありましたが、まだ現時点ではその範囲は詳しく習ってはいませんでした。なので、今後詳しく学ぶ時に、今回の研修で学んだ知識を活かして自分を高めたいと考えています。他にも今回は台湾の理学療法士の在り方を学びましたが、他の国の理学療法にも興味を持つことが出来たので、この経験を活かし様々な国の理学療法について学びたいと強く思いました。その気持ちを糧にして、今後の実習にも取り組んでいきたいと思っています。
5. 自由記述	

※学生から承諾を得たうえで、当報告書の記入内容を掲載しています。

海外留学報告書

【参加者E】

所属	リハビリテーション	学部	理学療法	学科	2	年
プログラム名	海外施設研修					
留学期間	西暦 2024 年 9 月 8 日 ~ 2024 年 9 月 14 日 (約1週間)					
留学先 (国・地域)	台湾	留学先大学名	中山医学大学			

1. 留学した理由、目的・目標	今回、この海外施設研修に参加した主な理由は、海外の医療の発展に興味があったのと、単純に世界を見ておきたいという気持ちがあったからです。異文化という環境に自ら身を置き、コミュニケーション能力や多様性への理解を深めようと考えました。自分の専門知識はまだ僅かですが、海外の医療技術を学ぶことを通じて自身の成長に役立つと考えました。今回のプログラムを通しての目標は、異文化の医療形態や状況を自分の目で見て感じて、今後の学習に活かすというものでした。
2. 現地での活動内容 (授業や生活面など)	実際に病院に行って研修を受けたのは4日間でした。まず1日目は午前小児についての講義を受けたあと、主に小児の医療現場の見学をしました。食事現地の学生達に台湾の美味しい料理屋に連れて行って頂きました。2日目は午前神経系の講義を受けたあと、午後義肢装具センターの見学をしました。夜は中山医療大学の先生方と食事会しました。台湾料理を嗜ませて頂きました。3日目は自分の体調不良で欠席となりました。4日目は午前物理療法の講義を受けたあと、車椅子等の装具センターの見学をしました。
3. 留学の成果 (<ul style="list-style-type: none">・目標の達成度・新しく発見したこと・新しく感じたこと など)	今回の海外研修プログラムの成果については、実際に海外の医療現場の見学をして自分自身に刺激になったと思います。詳しく言うと、2年生の段階でこのような経験をさせて頂いて、1年生時に見学実習しか経験していないということもありますが、医療現場に携わる人間には最低限の知識や能力が必要なのだと改めて感じました。現地の学生は中国語と英語の二か国語を使用しており、その他に日本語であったりと多様なグローバルな学習をしていました。私の学校では、医療英語の講義がありますが、とても大事な講義だったのだと感じました。やはり当たり前のことではありますが、必要のない講義などなく、全て今後につながる講義だと思い、今後の学習生活を見直そうと考えました。
4. 留学経験を今後、どのように活かしますか	今回の海外施設研修の経験を今後の測定実習など臨床の現場に活かそうと考えました。海外の医療の見学をしたという実績は今後の自慢にもなると思うし、自信にも繋がると思います。今回一番感じたことはやはり言語力の不足なので、もっと異文化に目を向け自主学習もしようと考えました。現地の学生と私達の姿勢にやはりギャップを感じたので、日頃の授業であったり自主学習にもっと真剣に取り組むべきだと思いました。
5. 自由記述	今回このような貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

海外留学プログラム／グローバルキャンパス（GC）体験プログラム 参加者へのアンケート（参加前/参加後共通）

回答者は以下の各項目について、それぞれ1～5のいずれかを選び回答する。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 全くあてはまらない | 4. だいたいあてはまる |
| 2. あまりあてはまらない | 5. よくあてはまる |
| 3. どちらでもない | |

1. あなたが思う自分に対する能力や自信についてお伺いします。

- 研修を受ける国や社会に関する知識を持ち、情報の収集ができています。
- 海外留学プログラム／GC体験プログラムの目的を理解している。
- グローバルシーンにおいて実践的に学習中の言語を使うことができます。
- ライティング（文書作成、理論的思考）の基本を身につけている。
- 学習中の言語で質疑応答に対応できるノウハウを身につけている。
- グローバルシーンにおける対人関係（リーダーシップ、チーム形成、問題解決を含む）を構築することができる。
- グローバルシーンに通用する国際感覚を身につけている。
- グローバルシーンにおいて交渉力を身につけている。
- これからの就職活動について自信がある。
- 与えられた仕事に責任を持つことができる。

2. あなたの異文化に対する態度や意見についてお伺いします。

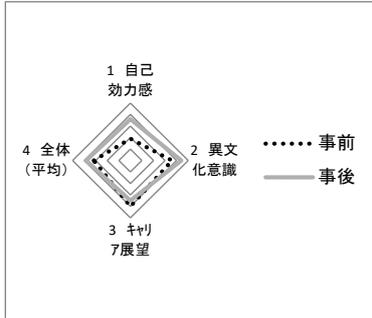
- 自国とは異なる文化に理解をもっている。
- 自国文化と他の文化の違いを快く受け入れることができる。
- 文化の異なる人々と、様々な方法でコミュニケーションができる。
- 自国文化について相手に伝えることができる。
- 多様な文化や価値観を認識し、多様性を認め合うことができる。

3. あなたの将来のキャリア展望についてお伺いします。

- 自分の適性や能力にあった仕事があるか理解している。
- 自分が就きたい仕事が決まっている。
- 自分が将来就きたい仕事のために、どのような能力が必要かを理解している。
- 国際的な仕事に関心を持っている。

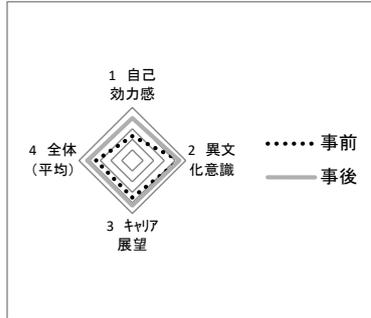
【参加者A】

	事前	事後
1 自己効力感	1.9	3.6
2 異文化意識	3.6	4.4
3 キャリア展望	4.0	3.5
4 全体(平均)	3.2	3.8



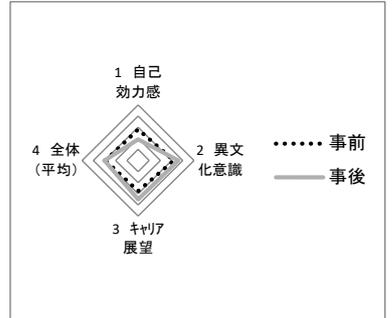
【参加者B】

	事前	事後
1 自己効力感	2.3	4.0
2 異文化意識	4.4	4.4
3 キャリア展望	3.5	4.3
4 全体(平均)	3.4	4.2



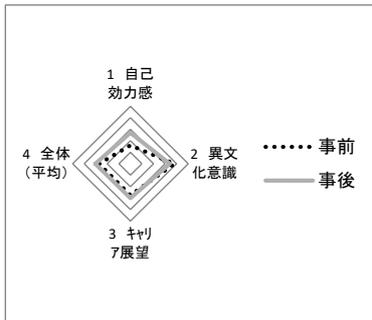
【参加者C】

	事前	事後
1 自己効力感	2.8	1.9
2 異文化意識	3.2	3.6
3 キャリア展望	2.8	3.5
4 全体(平均)	2.9	3.0



【参加者D】

	事前	事後
1 自己効力感	1.6	2.7
2 異文化意識	3.8	3.4
3 キャリア展望	2.8	3.0
4 全体(平均)	2.7	3.0



【参加者E】

	事前	事後
1 自己効力感	2.6	5.0
2 異文化意識	3.8	5.0
3 キャリア展望	4.3	5.0
4 全体(平均)	3.6	5.0

